

平成26年第4回邑楽町議会定例会議事日程第3号

平成26年12月10日（水曜日） 午前10時開議
邑楽町議会議場

第 1 一般質問

○出席議員（13名）

1番	塩井早苗	議員	2番	原義裕	議員
3番	松村潤	議員	5番	神谷長平	議員
6番	半田晴	議員	7番	坂井孝次	議員
8番	大野貞夫	議員	9番	田部井健二	議員
10番	小沢泰治	議員	11番	岩崎律夫	議員
12番	小島幸典	議員	13番	立沢稔夫	議員
14番	本間恵治	議員			

○欠席議員（1名）

15番	細谷博之	議員
-----	------	----

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
堀井隆	副町長
大竹喜代子	教育長
飯塚勝一	総務課長
橋本喜久雄	企画課長
諸井政行	税務課長
吉田紳二	住民課長
相場利夫	安全安心課長
河内登	健康福祉課長
多田哲夫	子ども支援課長
大拙一	農業振興課長 兼農業委員会 事務局長
半田実	商工振興課長
小島靖	都市建設課長
小島敏晴	会計管理者 兼会計課長
茂木一夫	水道課長
神山均	学校教育課長
半田康幸	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

小 倉 章 利	事 務 局 長
田 部 井 春 彦	書 記

◎開議の宣告

○本間恵治議長 これより本日の会議を開きます。

[午前10時01分 開議]

◎一般質問

○本間恵治議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

順次発言を許可します。

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○本間恵治議長 10番、小沢泰治議員。

[10番 小沢泰治議員登壇]

○10番 小沢泰治議員 10番、小沢泰治です。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

選挙から3年半過ぎまして、また来年は選挙だということで、一生懸命町のため、あるいは地域のために頑張らせていただいているつもりなのですが、きょうは何か新聞を見ますと、特定秘密保護法の施行がきょうからだそうです。やはり情報公開というものは非常に大事で、その情報を発せなければ情報は伝わらない。また、過去に邑楽町でも事件がありましたが、町長に関係する事件で、守秘義務とかいろいろありまして、町でも町長の兄弟の方が定年退職前に退職なさったということもありました。そういうことで、本当に情報というものは、私は大切なものだと考えております。通告の項目にも書いてあるのですが、そういうことを念頭に置きまして、きょうは深刻な少子高齢人口減少の邑楽町の再生策は何がいいのだ、現実に今置かれている邑楽町の過去も見ながら、そして将来の明るい邑楽町を実現するために60分という時間をいただきまして一般質問をさせていただきます。

ただいまお話ししましたように、12月10日から政府が重要情報の漏えい防止、それを目的とする秘密保護法を施行した。これは、直接的には私たちには関係ないと思うのですが、非常に重要な法律だと思います。そういう中で、私たちが町のために、邑楽町がよくなるために議員のある意味責務として一般質問をさせていただき、提案、提言をするわけです。また、行政の誤った事業実行がないようにチェック機能も私たち議員が果たしていく役割があるわけです。そんな中で、ただいまお話ししましたように深刻な、邑楽町本当に深刻、少子化が深刻です。高齢化も深刻です。人口も減少で深刻です。日本一内陸の地として環境に恵まれた邑楽町で、邑楽町行政は、あるいは議会は、あるいは町民は何をせねばならないか、そのことについてお話しさせていただきます。

町長は、長く町職員、公務員としての生活を送ってこられたわけですが、行政執行をしていくかじ取り役の社長、町長であるということから、これまでに入職されてから経験しました係に

ついてお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、昭和37年5月に入職をいたしまして、出納室出納係、当時の厚生課、福祉関係が中心ですが、福祉係、そして保育園の園長、それから教育委員会の学校教育課、そして産業振興課という職場で仕事をさせていただきました。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今お聞きしますと、福祉から教育から、それも学校教育、国の根幹をなす義務教育の学校教育課の課長、そして産業振興課に携わったということで、直接的に金庫にかかわる仕事はなさっていなかったと思うのですけれども、邑楽町のある意味根幹をなす課、係だと思えます。そんな中で、その経験を生かして今町長をなされて、町民に選ばれて町長をなされていらっしゃることであると思うのですけれども、やはり邑楽町が、行政はサービス業の最たるものだとよく言われますけれども、宛てがわれたものに対しての事務執行だけでは邑楽町の発展はないと思います。そんな中で、昭和37年5月に入職して、金の出し入れの係から産業振興ということで経験した町長に、邑楽町がなぜ現在のような町になってしまっているか、それについてお聞きしたいわけですが、職員を定年退職して議員もなさいました。そして今首長ですから、そのこともいろいろ含めまして町長のほうからお話を伺いたいと思います。

○本間恵治議長 小沢議員、現在のような町になったという、その抽象的な言葉だと答えられないと思います。もっと具体的をお願いします。

○10番 小沢泰治議員 具体的にお話ししますと、群馬県でも有数の、表題にもありますように、少子高齢人口減少の町になっているわけです。その現状を見て、大きくくくってお話をいただければと思います。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 群馬県の状況下の中、現在の邑楽町の人口減少をどう思うかということですが、これは邑楽町に限らず、他の市町村も全国的に人口減少ということは発生して、まさに今日本的な大きな課題ということになっておりますから、邑楽町が特にどうこうということではなくして、全体的にこの人口減少は問題であると、そのように思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今町長、邑楽町だけの問題ではないということをおっしゃいました。過去の私の一般質問においても、邑楽町がどうのこうの、邑楽町はそんな悪くないということ言い切りました。しかしながら、過日の新聞の紙面を見ても、消滅する可能性のある町だということで邑楽町載っているわけなのです。そういうことを考えると、町長がお話ししているのは、町民に情報提

供を行政、町が、町長がしていないからそういう発言が出るのだと思うのです。今の邑楽町だけではない、全国的にそうなのだとおっしゃいましたが、もう一度邑楽町の実態を知ってお話をさせていただきますか。

○本間恵治議長 小沢議員、邑楽町の実態を知って答えろって、その実態を具体的に言って答弁を求めないと、町長のほうは何て答えていいかわからないですよ。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長にはお話ししてあるわけですから、現実には減っている、その実態よくわかっていますよね、ほかと比べても。ですから、そういうのをわかっているわけなので、頭に置きながらお話しください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいま議員のほうから、邑楽町が消滅する可能性のある市町村というようなご意見がありました、これは民間の機関が調査したものであって、その結果が全国1,700ほどある市町村のうち896の市町村が、いわゆる20歳から39歳までの年齢構成を見た場合に、将来的に消滅可能な都市であるというような結果、これはあくまでも調査機関が調査したものであって、昨日もお答えもいたしました、邑楽町が消滅をするというような考え方は、私自身は思っておりません。したがって、その数字がどういふもとを根拠にして出されたかということもあるわけですが、したがって、私は議員が言われるような状況にはないというふうに思っております。

また、他の市町から比べて邑楽町は減少しているということがありますが、小沢議員常々太田市を例に挙げておりますが、太田市は過去に合併をされた市ということです。その旧の町を捉えた場合には、それぞれのところでもやはり減少しているところもあるということもぜひご理解をいただきたいと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 太田市は合併して10年たちますけれども、合併した4市町、非常に減りが少ないし、トータルで見るとふえていると、そういう状況です。それで、町長が、私小沢泰治は太田市太田市って話をすることによって言われたものですから、私はこういうふうに調べてみました。本来はこういう情報を町民に行政が発するのですよ、こういう情報を。全然そういうのをなさっていないから今の町長のお話のように無責任な話が出てくるのです。そして、町長は出かけて行って、その無責任な話をさもものごとく話すと思うのですけれども、今の町長のお話が間違っているということで、私ちょっと数字を読み上げてみます。ここに西の太田市、東の館林市、真ん中の邑楽町、この東毛が、統合するといふときが来れば、きっと邑楽町が中心なのです。ですから、私は統合、それは早いほうがいいのだと。あらゆる社会教育、あるいは公の施設ができて上がった段階で、では一緒になりますと言っても、新たに物をつくるなんてことはありません。邑楽町も現実町長が

提案して公民館ホール実行に移っております。私は、その計画をぜひ中止していただきたい。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○10番 小沢泰治議員 いや、それは不可能ではないのです。

それで、この2市1町の数字をお話しします。私が昭和21年5月26日生まれ、私の年代から年から第1次ベビーブームが始まりました。終戦直後です。それからの10年間というものを各市町とも100とした場合に、邑楽町を100人としたときに第2次ベビーブーム、私たちの子供ですね、その10年間を見ると、100人のうち邑楽町は80人しかいないのです。また、第2次ベビーブームの子供たち、団塊2世が出産、育児、今なさっているわけですが、その子供たちは52人なのです。約半減しています。ましてや、その後お生まれになっているゼロ歳から10歳の子供を見ますと、私たちもう高齢化に入っております。私たちを100とした場合に、ゼロ歳10歳は48人しかいないのです。よく皆さん頭に入れてください。だから新聞紙上に消滅する可能性のある町だということで大きく載ってしまうのです。ああいうのが載った場合に、邑楽町に移り住んでください、町長はよくお話しします。いや、すばらしいのだ、邑楽町へ来た人はいって言うているのだ、ですが、現実がこういうふうに物語っているわけなのです。ですから、いつもそれを言っているなど私は言っているのです。情報を発信してやって、こういう現状なのだということを知っていただく。またそれを解消するために事業執行せねばならない。

まず、では太田市、館林市あるわけですが、先ほど太田市の話が出たから太田市の話をさせていただきます。太田市は、私たちを100とすると、私たちの子供たち、第2次ベビーブームの子供たちは110いるのです。1割増しです。そして、その子供たちが70、またその子供、ゼロ歳から10歳の幼子は75人いるのです。ふえているのです。邑楽町は減り続けて、極端に。それは太田市、100が75、現実。100が48、それでは太田市太田市でなくて隣の館林市、それこそ館林市は内陸にあって日本一、あらゆる意味で環境の、自然環境といいますか、地理的な条件が整っているまちだと思うのです。その中にあって、館林市、私たちの年代を100とすると、その子供たち、第2次ベビーブームの子供たちは99.5ですから、四捨五入すると私たちと同じだけ2世がいます。それで、その次3世が61人、その下のゼロ歳から10歳までの幼子は59.6だから四捨五入すると60人いるのです。そういうのを見たときに、これを見て、先ほど町長がお話ししてくださいました。現実はこの今の数字メモったと思うのですが、それを私の話をお聞きになっていただいて、現実にとどのように感じますか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 各市町村ともその時々々の年齢、階層ということが大きく起因をする、原因をしているかなと思います。議員が具体的に昭和21年という出生の第1次ベビーブームというお話もされましたが、これはどこの市町村でもそういった形であらわれてきているかなと思います。その結果が、

やはり今言われたような出生等も含めて人口の数値になっているのではないかなと、そのように思います。その後の自然増ということ、社会増ということについて、特に社会増については、その時々を経済的な要因ということが大きく寄与するものであって、私は全体的に見た場合に、この特に出生数ということを言われましたが、これは全体的に見て、私はおおむねこの市町村でも同様な結果が生まれてきているのではないかと、邑楽町だけが突出して減少しているということにはならないだろうと、そのように思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 やはり行政執行する上で何を頭に置いていろいろ事業を展開するか。先ほどお聞きしましたら産業振興課長を務めた。その前は学校教育課長だと。現実に現場を町長は見てきましたよね。としたら、このようにならないように役場の職員のとき考えなくてはならないのではないのですか。どんな考えで、ただ給料をもらえばいいとかそういうので務めていましたか、お聞かせください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 行政執行、今でもそうだと、各課長もそのようなことで仕事を推進していると思うのですが、やはりその事業執行をする上で与えられた職責ということは、十分完遂するように努力をしているわけでありまして、特に、私が学校教育課、それから産業振興課と具体的なこともお話がありましたが、私はそのときはそのときで十分その当時の施策に合った中で仕事を進めてきたということでご理解いただきたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私は、決してそのようになさらなかったのではないかなと思うのです。邑楽町、館林市、千代田町には工業団地があります。明和町、板倉町もいっぱいありますけれども、主に言う鞍掛工業団地と俗に言いますけれども、鞍掛の第三まで全部埋まりました。次に、やはり邑楽町が発展するためには、鉱工業が盛んになって人口がふえて、子供たちがまた生まれて、働く人が邑楽町に住んで子供たちがふえる、そういう環境をつくらなければならないと思うのですが、鞍掛の第三に続く第四の工業団地、1回目、それと過日県のほうからだめですという話があったということで私たちにはお話聞きましたけれども、やはり県が決断してくれるときに、邑楽町が後ろ向きであってはだめだと思うのです。何が何でもやってください、邑楽町の例えば人口を見ればこのようなのです。これを解決して大澤県政に協力したいのだということを強力にアピールすれば、私は第四も可能だったのではないかなと思います。ぜひそういうことがありますので、今後については、前向きに事業執行計画を立てていただければと思います。

続いて、人口減少の、今のお話と同じようになるかもしれませんが、人口減少の解決策を教えてください。先ほど町長がどこも同じだというお話ししましたけれども、現実にはほかの町と違うので

す。邑楽町は、見渡せば北は足利市、佐野市、古河市、行田市、熊谷市、深谷市、太田市、伊勢崎市、桐生市と、中核市といえますか、そういう大きなまちがいっぱいあるわけです。その中心ですから、前にもお話ししましたが、当世代、1代目、2代目、3代目もここに移り住んで、どこの地域、四方八方どこにも就職ができるような場所です。そういうことを頭に置きながら、人口減少の解決策は何であるかお話しください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 人口減少の解決策ということで具体的に出ましたが、先ほどもお答えいたしました。人口のいわゆるピラミッド型があるわけですね。第1次ベビーブーム、第2次ベビーブームとあります。これらの年代の階層の方々が、その年代が過ぎますと、当然第2次ベビーブームというふうになってくるわけです。こういった自然増ということに期待するというのも1つだと思います。それから、議員が先ほど工業の発展に寄与すればという話がありましたが、そういった雇用、働く場ということが存在すると、あるということであれば、これはやはりそういった面での減少に歯どめがかかるだろうと思います。

したがって、これをどこの、全国市町村全てにわたって人口減少ということになっていますから、では邑楽町が大きな施策をつけて転入する方を、仮に社会増がふえたといっても、他のまちは少なくなってしまうと。お互いにそういうやりくりの動きがあるわけですから、これ全体的に、今、国を挙げてこの減少対策をいかにしたらいいのだろうか。これは、邑楽町だけの問題ではなくて、大きな社会問題というか、日本の国にとってこの減少対策について議論されているところです。したがって、きのうも議員にもお答えいたしましたけれども、この少子化対策も十分考えていく中で、少しでも人口減少に歯どめがかかる、ふえるということの施策は、今後取り入れていきたいと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長が7年前だか、7年前だと思うのですが、1回目の町長選挙のときに、中学生までの医療費を無料化するというので大々的に宣伝しました。あれは、もう国もですけれども、県の段階でもう内部ではやっていたのですよ。本当なのですよ。それを悪い言葉で言えば盗んで、私がさもやったのだなんていうのでピラを配ったわけですが、そういうのではなくて、人口減少の解決策、何をやるか、今抽象的な話をしてくださいました。抽象的では邑楽町は発展しません。何をなさいますか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず町として、昨日議員のほうにお答えをいたしました少子化対策についての充実を図っていきたいと、このように思っております。

○本間恵治議長 小沢議員、抽象的など申しましたけれども、もしそういうのであれば自分から発案を出して、こういうのはどうだというふうな受け答えをしたほうがいいと思います。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私は、今の町長の話は、私の質問の答えになっていないと思うのです。ぜひ策をお話してください。具体的に。お願いします。

○本間恵治議長 小沢議員、この場で策を出せと言っても、それは、例えば新しい事業をどういうふうに考えているかとか、そういう考えだと思うのです。そういうことであれば自分が提案をして、私はこう思うのだけれども、これについてどう思うかとか、そういう問いかけではないと、町長だって即答で答えられないと思いますけれども、どうですか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長は、抽象的なお話ですから、誰でも話ができるお話なのですけれども、私個人とすれば、一番結婚しない、あるいは子供を生まない、生めない、いろいろあります。しかしながら、生めないでなくて生まないというのが大方だと思うのです。なぜならば、今子供をお産みになる年代、あるいは育てる年代の方は、自身が親の金銭的な苦勞だとか本人の金銭的苦勞、十分味わっている世代なのです。ですから、私個人とすれば、消費税を上げてまでもやはり高等教育、高校から始まって大学、専門学校、そういうところに国費としてやるべきだと思うのです。その以前にほかのまちから邑楽町に移り住んでいただくという場合には、だとすれば、私高校、あるいは専門学校、大学、その子供たちのいる世帯に町として現金を、あるいは邑楽町の商品券を、金券を配って、邑楽町はすばらしいのだ、地方新聞にでもしっかり載せる、全国紙にでも載せていただいて、それを発信したならば、きっと邑楽町、環境はいいのですから、町長もよくお話しします。私は人口も伸びると思うのです。そうしたら、消滅する可能性のある都市、悪い意味で新聞の記事にならないと思うのです。いかがですか。私のそういう考えなのですけれども。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 特に具体的なお話がされましたけれども、そういった対象となる方々に現金を、あるいは商品券をというお話ですが、それについては現状では考えておりません。

そしてまた、繰り返しになりますけれども、消滅可能性都市にはならないというふうに思っておりますので、そのように私自身これからも仕事を進めていきたいと、そのように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私は解決策になると思います。すごくインパクトがあると思うのです。それで、その少子化対策ということもあったのですが、今の人口減少と少子化が絡みますから、次のは一緒にしますけれども、私はインパクトがあって非常にいいことだと思うのです。なぜなら、日本が消滅するのですよ、今の状態でいくと。それを考えたら、邑楽町が先頭を切って、ましてや今は

衆議院の選挙が2日に公示になって、国会議員の選挙です。声高らかにその辺を話して、それで邑楽町を宣伝する、邑楽町に移り住んでください。その財源は、私は現実にこの高齢社会、ひとり住まい、あるいは2人、高齢者の。そういう中であって、空き家が今いっぱいふえています。空き店舗もふえています。空き工場もあります。そういうのを現存建造物、施設をしっかりと有効活用して、新たに20億円もかけて施設をつくるのではなく、邑楽町のために金使ったほうがいいと思うのです。毎年1億円使うとすれば、それを子育て、あるいは高齢者の福祉、あるいはインフラ整備、そういうものに回していただけたならば、私は邑楽町よくなると思うのです。

それはなぜかといいますと、先ほどもお話ししましたが、みんな苦勞している、経験しているのです。例えば、赤ちゃんがお茶をついだ茶わんにさわってこぼしてしまったとか、その経験をすれば、それは二度としなくなりますよね。今の子育て世代、その次第3世代、そういう方々は、もう苦い経験をなさっているのです。ですから、それを解消するための、例えば熱湯のお茶があるとすれば、そのお茶は高くに上げるだとか、そういうふうにしてそれを防ぎますね。そういう手段として、ぜひ邑楽町として考えていただければと思うのです。1億円そちらに回したならば、私はすごく、いただいた方はもちろんですけども、高齢者の方にしてもあぁいいことだな、そういうことを思うと思うのです。

市民ホールの話出ましたけれども、私がつい個々講演会とか聞いているのですが、過日、プロ野球の桑田真澄さん、あの方のお話も聞きました。また、林修という方が、進学予備校の東進ですか、またそれは文化教育面ですけども、過日は古河市に出向きまして歌謡ショーを見聞きしてまいりました。つい先日は、太田市のある会社でコンサートを聞いてきました。きょうは、本来なら一般質問ですから、ゆうべは早く家に帰ってこれを練ったほうがいいかなと思ったのですけれども、ゆうべは大泉町の文化むらで講演を聞いてきました。ちょっといいですか、そういういろいろ経験をした中で、すばらしいものはすばらしい、だめなものはだめなのです。ゆうべはイエローハット、多分皆さんご存じかと思うのですけれども、そこの創業者でもう引退なさった方ですけども、鍵山さんという方のお話聞きました。ですから、そういうやはりいろいろの経験、施設等もどういふものだなこうだな、そういうのを考えながら議員活動もやらせてもらっているのですけれども、ぜひそういう、先ほどお話ししましたように、前向きな投資をしていただければと思うのです。

本当に空き家、ひとり暮らし、2人暮らし、高齢者のです。空き家、民間の空き施設、あるいは現存するすばらしい建物の利用方法の変更、例えば南中学校をどうしたらいいか、教育長、関連しますけれども、そういうことを考えて邑楽町のあすのために仕事はしなければならぬと思うのです。現実、邑楽町全体のアンケートもとらずに公民館ホールの建設を長期総合計画にのっているからやるのだ、現実には人口がこのように、当初つくった段階からすれば人口減っているのです。ですから、時の執行者はそういうことを考えて、あすに向かって頑張らなければならぬと思うのです。そういうことで、先ほどお話ししました高等教育、高校、専門学校、大学、大学院、院は別にしま

して、そういう年代に対して、町長はその考えは一切ありません。私だったならば、ホールの建設を、公民館は必要ですよ。ですから、それは代替の南中学校をそれこそ幼少時から高齢者、終末期の方々まで使えるような施設に私は塗りかえたいと思うのです。それには事業執行を停止しないとならないのですけれども、町民の皆さんの意向を聞いて、そういうふうになさってくだされば、私は邑楽町のためになると思うのです。

今町長のほうからる回答いただきましたけれども、邑楽町を、ホールもそうですけれども、利用する方が少なく、あるいは各校長OBに聞くと、各学校とも発表会等には十分、それこそ今の状況でいけば余だけの施設があるということ、私は現実に校長OBにお聞きしています。そういうことでありますから、ぜひ考えを変えていただいて事業をなさっていただければと思います。

それで、邑楽町を、このように衰退し続けている邑楽町を隆盛発展するためには、今町長のお考え、頭、脳裏にある、こういうことをやったらということ、これを披瀝していただければと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変議員に申しわけないのですけれども、議員の今のご質問を伺いまして、どのようにお答えをされているのか、正直見当たりません。したがって、町をこれから発展させ隆盛をさせていくということについては、私は先頭に立って町民の皆さんの協力をいただいて、今後ますます発展するように努力をしていきたいということについては、申し上げたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 第五次総合計画10年間のが来年度で終わりになる。平成28年からは第六次、そういうことで、将来に向かって邑楽町の町づくりをせねばならないわけですが、そのときそのときの執行者、為政者が間違った方向であれば邑楽町の発展はないし、学校教育課あるいは産業振興課の経験をなさっている町長でしたら、当時と、何年たつかわからないのですが、8年、10年、15年や20年たっていると思うのですけれども、そういう首長が前向きな考えを持って、邑楽町のためには何をすればいいのだ、自分のためではないのです。邑楽町のためには何が必要だ、何をせねばならないかということで考えたならばきっと、これだけすばらしい郷土なのですから、いい案が浮かぶと思うのです、前向きにプラス志向に頑張れば。

過日のほかの議員さんの一般質問を聞きまして、町長のお話を聞きますと宛てがわれた、県から国から宛てがわれたものを消化するというスタイルだと思うのです。そうでなくて抜本策を、邑楽町がこういう危機的状況、新聞にだって消滅可能性都市なんて載ってしまったわけですから、それを打破するためにぜひ頑張っていただきたいのですけれども。

あと1年ですか、そういうことで、8年が終わるわけですが、あと1年でどのようなことをやろうと思っているか、計画は別にしてお聞かせください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 昨日も同様な質問をいただきましてお答えをいたしました。特に子ども・子育ての環境、子育てしやすいような環境づくりを充実させていく。そして、教育を含め教育施設等の充実を図っていきたい。そして、第六次総合計画があるわけでありますから、第五次については、おおむねその計画どおり進めてこられたということもありますから、積み残した部分について、若干残っておりますので、それらを第六次の総合計画に計画としてのせて、小沢議員が言われますように消滅する可能性のある町にならないように前へ進んでいきたいと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今のお話聞きますと、日本中津々浦々どこでもお話ししているお話なのですね。私も町長と同じことを考えます。子育て環境の充実、改善、高齢者の福祉の向上、そういうこと。それはどこでも同じなのです。邑楽町は自然環境すばらしいわけですから、その辺を頭に置いた、もうよそにお住まいの方が目を見張るような施策を打っていただければと思うのです。

それで、今は犯罪も本当にあちこちで起きているのです。学校へ通う、帰る、そういうときは見張って、高齢者の方が見張ってくださっている。いろいろありますけれども、そういう中で、ぜひ邑楽町は防犯灯をいっぱいつけていただきたいのです。防犯灯でなくてカメラ、カメラです。防犯灯はいっぱいついています。カメラをここはということへいっぱいつけていただきたいのです。それはお金がかかります。ランニングコストもかかりますけれども、高齢者、ひとり暮らし、2人、あるいは子供たち、そういうことを考えたとき、あるいは犯罪者のことを考えたならば、邑楽町が地方新聞に町長が発信して載せたならば、安全安心な町なのだな、邑楽町は白鳥が来るし多々良沼があって、多々良沼の水がきれいになっている。そうしたらいいところなのだ、平坦地である、東京にも近いということで、邑楽町の宣伝にも十分なると思うのです。ですから、ぜひ防犯カメラの設置を積極的に推し進めていただきたい。私なら推し進めます。ほかの予算を削っても推し進めます。そういうのが、あるいは財政調整基金、なぜなら、必要なものなのですから。そういうときは財調を使ってもいいのですよ、貯金を使っても。でも必要ではないものに貯金を使って、ほかで用が足りるものに貯金を取り崩してやる事業執行は、私はないと思うのです。

防犯カメラ、いかがですか。大きく予算をとっていただいて、ぜひ設置して、そしてメディアにそれを載せる、そういうことをしていただきたいのですけれども。

○本間恵治議長 小沢議員、通告にある文章の中と防犯カメラとがどういうふうにつながるのか、私には理解できませんけれども、話が脱線していませんか。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 表題にもありますけれども、深刻な少子化、あるいは高齢者がいるのです。非常に今は――、そういう方も多くなってきました。そういう中であっては、やはりそういう面のイ

インフラの整備もしっかりしていなかったら、邑楽町として事件発生が起きる可能性が高くなる。それを防止するためにもぜひお願いしたいのです。

それで、先ほどもお話ししましたが、この特定秘密保護法の施行がきょうからですけれども、私は情報発信をじゃんじゃんしていただきたいと思うのです。それは、いいことも悪いこともです。いいことだけをしているから今の邑楽町みたいになってしまったのですよ。悪いことも情報発信すれば、限度がありますけれども、例えば税金あの人は滞納しているからそれをこうだなんて、この間の過去の事案みたいなことやってはだめだよ。そういうのをしては困るのですけれども、必要な情報は町民に提供する。それをすることによって町民の認識も変わって、町長がおっしゃる協働の町づくりに町民が協力するのですよ。あるいは子供が協力するのですよ。そういうことなのですから、いかがですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、防犯カメラの設置については、必要となる箇所については、現在計画的に実施をしております、さきの議会でもその予算の可決をいただいたという経過がありますので、ご理解をいただきたいと思います。

それから、情報公開であります、これについては、町に情報公開条例あります。したがって、その条例の中で十分その公正な公開はされているというふうに思っておりますから、もし必要という形になれば、その申請をしていただければいつでも、個人情報はいろいろ問題がありますが、それ以外、町の行っている事業については情報公開は可能でありますから、ご理解をいただきたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私は、情報公開というか情報の提供は、今の町長の考えのスタンスではないのです。基準ではないのです。一般町民に邑楽町の現実、現状、あるいは今までどうだった、過去はそんないいですけども、こういうのだったのだけれどもこうなのです、そうしたら邑楽町どうしたらいいでしょうかということを提供してやれば、邑楽町はすごく心の通い合う住みよいところになると思うのです。情報公開条例があるから、ではそれをいただきに来るという方は、表現が悪いかもしれないけれども、特殊というか、特別にどうのという方だと思うのです。必要の方。そうでなく一般町民に、例えばこういうものをお配りすれば、ああ本当に邑楽町は大変なのだな、だけれども、これを配るからには、これではないことを邑楽町は実行するのだということ常々考えていなかったらだめですよ。先ほどの防犯カメラ逐次つけていくのだ、それではだめなのです。だから、順次つけていくのではなくて、現実にPTAでも教員でもあるいは市民、高齢者、どこがいい、どうだこうだと特に出していただいて、いっぱいつけるのですよ。そうすることによって、邑楽町は安全安心な町だ、自然豊かな町だということになります。ですから、よその市町村からあ

るいはよその県から呂楽町に移り住むように、ぜひ考え方を改めていただいて、やはり2万六千何
がしの町民がいるわけです。日本人がいるわけです。ですから、大きな力がある意味あるわけ
から、お願いしたいと思います。

また、最後になりますけれども、やはり行政執行するには首長が選挙があるのです。私この間
古河市でコンサートを聞きに行ってきたというお話ししましたけれども、古河市が2年前に市長の
リコールをしようとしたのです。それは、市民会館建設についてなのですけれども、それとそうい
うことなのですけれども、そういうことをやって、リコールが成立する前に市長は辞職してしま
いました。過日行ってきたところは平らなフロアですけれども、そこで歌謡ショーを聞いてきたわけ
です。選挙結果は、リコールしかけたほうが7万3,000票の投票だったのですけれども、4万3,000票
がホール要らないという側、3万票がつくるのだという側の結果が出ましたけれども、市長はリコ
ール受ける前に辞任しました。そういうことですから、ぜひ呂楽町においても、すばらしい考えを
持ちながら前進していただければと思います。よろしく申し上げます。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○本間恵治議長 小沢議員が今発言しましたけれども、議会では社会教育施設建設基金条例を全会一
致で可決しております。そしてまた、議会では中央公民館、そしてホールについては皆さんと協議
をして、議会として建設の中身について、こういうふうにしてほしいということで議会でもとめて
お願いをしてあります。その中で、ホールも有効に使えるように、軽スポーツもできるようにとい
うふうな案をまとめた中で提出してある経過もごございます。そういうことを踏まえた中で発言する
のであれば、今回の発言はちょっと筋が違うのかなというふうに私は思います。

これにて一般質問を終結します。

◎散会の宣告

○本間恵治議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。明日11日は、議案調査等のため本会議を休会としたいと思います。これにご異議
ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○本間恵治議長 異議なしと認めます。

よって、明日11日は議案調査等のため本会議を休会とすることに決定しました。

最終日となる12月12日は、午前10時から会議を開きます。

本日は、これにて散会します。

大変お疲れさまでした。

〔午前11時04分 散会〕